

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	岐 阜 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	坂祝町立坂祝中学校			フロンティアチャ-	志手 士郎	
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	19
生徒数	85	81	119	2	287	

研究の概要

1. 研究主題

研究主題  
 「一人一人が持ち味を生かす学習活動づくり」  
 ~個に応じたきめ細かな指導を通して~

本校は15年度・16年度学力向上フロンティア事業の指定を受け、数学・理科・英語で少人数指導を進めているが、少人数指導の実践を進めているのではなく、少人数指導教科を核としながら全教科で生徒に「確かな学力」をつける実践を進めている。そこで、個に応じたきめ細かな指導を行い、研究テーマである「一人一人の持ち味を生かす学習活動」を推進することを通して「確かな学力」の定着を目指していきたいと考えた。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・1年生：数学  
生徒の理解の状況に差が出やすい教科であり、前の学習が理解できないと学習が成り立ち難いため、1年生で基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせておくことが絶対に必要であるから。
- ・2年生：英語  
学習内容が難しくなり、生徒の理解状況に差がでやすい学年である。そこで、少人数指導を取り入れ、きめ細かな指導を行う必要があるから。
- ・3年生：理科  
3年生は各学級40人であり、一人一人の実験用具など十分でなく、また課題別学習など個に応じた指導が難しいため、少人数指導を取り入れ、きめ細かな指導を行う必要があるから。

(2) 年次ごとの計画

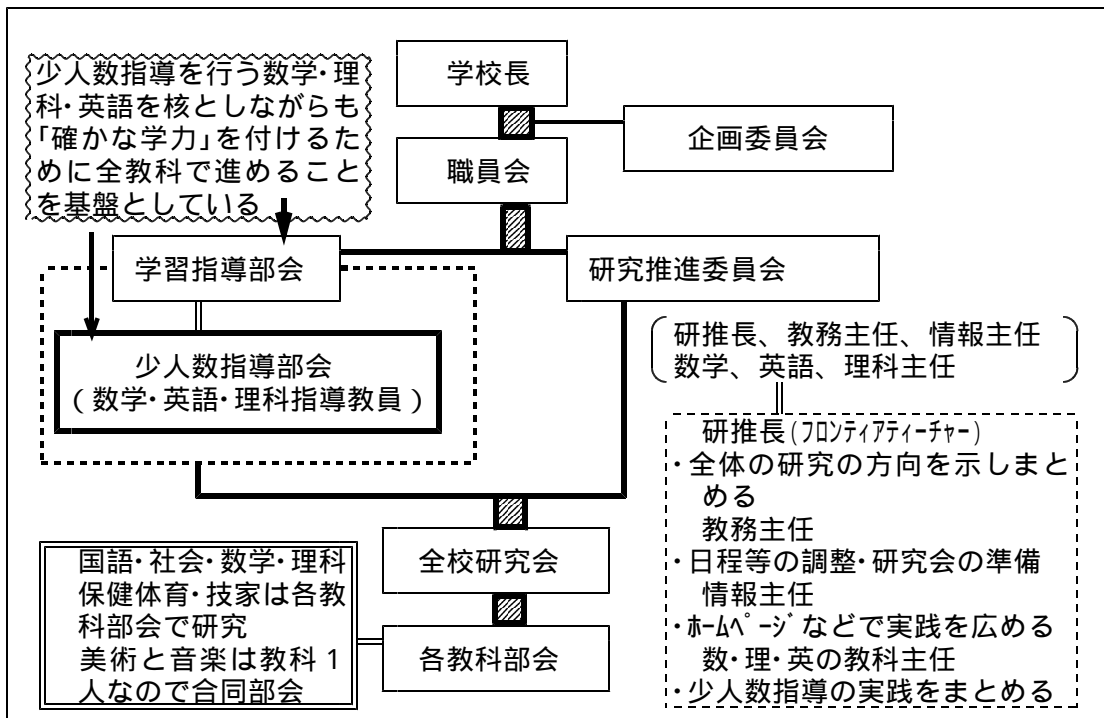
テーマ	「一人一人が持ち味を生かす学習活動づくり」 ~個に応じたきめ細かな指導を通して~
-----	---

平成15年度	<p>研究の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元指導計画の工夫・改善</li> <li>・教材開発の工夫 ・評価規準の明確化 ・単元構成の工夫</li> <li>指導方法の工夫・改善</li> <li>・学習形態の工夫 ・つまずきに対する手だての工夫 ・評価の在り方</li> <li>学習姿勢づくりの工夫</li> <li>・「坂中の学び」「教科の学び」の定着</li> <li>小学校、地域との連携</li> <li>研究の見通し</li> </ul>																										
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">月</th> <th style="width: 90%;">研究内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上フロンティア事業の趣旨を共通理解し、全教科で進めていくことを確認する。</li> <li>・研究授業に向けて教科・授業者等の決定を行う。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>5</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進委員会の提案を受けて各教科、研究内容の具体的な内容を検討する。</li> <li>・第一回指定校訪問に向けて、指導案の検討を進める。</li> <li>・第一回指定校訪問で理科の全校研を行い、確かな学力を付けるための1つの方法としての少人数指導のあり方について共通理解を図る。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>6</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科、確かな学力を付けるための具体的な方途を交流する。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>7</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の研究の成果と課題を確認し、夏休みの仕事内容を明確にする。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>8</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科、1学期の成果と課題を明確にし、夏休みの作業等を確認する。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>9</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科指導計画づくりを進める。</li> <li>・各教科指導計画の検討(1学期と夏休み作成分)</li> <li>・各教科2学期の研究の実践の進め方の共通理解を行う。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>10</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校研と町教育研究会を兼ねて行い、3教科の授業公開(理科・数学</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>11</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語)を通して、参観の小学校、幼稚園の先生方からの意見をもとに今後の課題を明確にする。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>12</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定校訪問(協議会)に向けての具体的な計画をもとに各教科準備を進める。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定校訪問(協議会)に向けての資料、指導案の最終検討、模擬授業を行う。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定校訪問(協議会)を通して本年度の成果と課題を明確にする。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会で明確になった成果と課題から来年度の研究の方向を明らかにする。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	月	研究内容	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上フロンティア事業の趣旨を共通理解し、全教科で進めていくことを確認する。</li> <li>・研究授業に向けて教科・授業者等の決定を行う。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進委員会の提案を受けて各教科、研究内容の具体的な内容を検討する。</li> <li>・第一回指定校訪問に向けて、指導案の検討を進める。</li> <li>・第一回指定校訪問で理科の全校研を行い、確かな学力を付けるための1つの方法としての少人数指導のあり方について共通理解を図る。</li> </ul>	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科、確かな学力を付けるための具体的な方途を交流する。</li> </ul>	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の研究の成果と課題を確認し、夏休みの仕事内容を明確にする。</li> </ul>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科、1学期の成果と課題を明確にし、夏休みの作業等を確認する。</li> </ul>	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科指導計画づくりを進める。</li> <li>・各教科指導計画の検討(1学期と夏休み作成分)</li> <li>・各教科2学期の研究の実践の進め方の共通理解を行う。</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校研と町教育研究会を兼ねて行い、3教科の授業公開(理科・数学</li> </ul>	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語)を通して、参観の小学校、幼稚園の先生方からの意見をもとに今後の課題を明確にする。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定校訪問(協議会)に向けての具体的な計画をもとに各教科準備を進める。</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定校訪問(協議会)に向けての資料、指導案の最終検討、模擬授業を行う。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定校訪問(協議会)を通して本年度の成果と課題を明確にする。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会で明確になった成果と課題から来年度の研究の方向を明らかにする。</li> </ul>
月	研究内容																										
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上フロンティア事業の趣旨を共通理解し、全教科で進めていくことを確認する。</li> <li>・研究授業に向けて教科・授業者等の決定を行う。</li> </ul>																										
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進委員会の提案を受けて各教科、研究内容の具体的な内容を検討する。</li> <li>・第一回指定校訪問に向けて、指導案の検討を進める。</li> <li>・第一回指定校訪問で理科の全校研を行い、確かな学力を付けるための1つの方法としての少人数指導のあり方について共通理解を図る。</li> </ul>																										
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科、確かな学力を付けるための具体的な方途を交流する。</li> </ul>																										
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の研究の成果と課題を確認し、夏休みの仕事内容を明確にする。</li> </ul>																										
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科、1学期の成果と課題を明確にし、夏休みの作業等を確認する。</li> </ul>																										
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科指導計画づくりを進める。</li> <li>・各教科指導計画の検討(1学期と夏休み作成分)</li> <li>・各教科2学期の研究の実践の進め方の共通理解を行う。</li> </ul>																										
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校研と町教育研究会を兼ねて行い、3教科の授業公開(理科・数学</li> </ul>																										
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語)を通して、参観の小学校、幼稚園の先生方からの意見をもとに今後の課題を明確にする。</li> </ul>																										
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定校訪問(協議会)に向けての具体的な計画をもとに各教科準備を進める。</li> </ul>																										
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定校訪問(協議会)に向けての資料、指導案の最終検討、模擬授業を行う。</li> </ul>																										
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定校訪問(協議会)を通して本年度の成果と課題を明確にする。</li> </ul>																										
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会で明確になった成果と課題から来年度の研究の方向を明らかにする。</li> </ul>																										

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>「一人一人が持ち味を生かす学習活動づくり」 ～個に応じたきめ細かな指導を通して～</p> <p>研究の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元指導計画の工夫</li> <li>・単元構成の工夫 ・評価規準の明確化</li> <li>指導方法の工夫</li> <li>・つまずきに対する手だての工夫 ・学習形態の工夫 ・評価の在り方</li> <li>学習姿勢づくりの工夫</li> <li>・「坂中の学び」「教科の学び」の定着</li> <li>小学校、地域との連携</li> <li>研究の見通し</li> </ul>				
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">月</th> <th style="width: 90%;">研究内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題・内容の検討と共通理解を図る。</li> <li>・授業者・学級・指導案の形式の決定をする</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	月	研究内容	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題・内容の検討と共通理解を図る。</li> <li>・授業者・学級・指導案の形式の決定をする</li> </ul>
月	研究内容				
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題・内容の検討と共通理解を図る。</li> <li>・授業者・学級・指導案の形式の決定をする</li> </ul>				

5	全校授業研究会（予定） ・全教科公開 ・数学の少人数指導の研究授業
6	全校授業研究会（予定） ・全教科公開 ・英語の少人数指導
7	研究職員会（発表会の日程・役割分担の確認）
8	職員作業（校内整備） 研究紀要・指導案検討・案内状
9	研究紀要完成 指導案完成
10	発表会（予定）
11	発表会の総括をする ・参加者のアンケート等の分析をする 教科部会にて研究の成果と課題を検討する。
12	研究推進に委員会で研究の成果と課題をの検討をする。
1	全校研で研究の成果と課題の検討をする。
2	2年間の研究実践の総括をする。 来年度以降の研究の方向の検討をする。
3	各教科の研究実践の見直しをする。 来年度の研究計画の検討をする。

(3) 研究体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

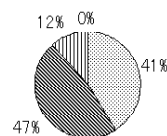
<関係資料・アンケート>

全学年の生徒、保護者を対象に少人数学習についてのアンケートを行った。保護者については、より少人数学習を理解しアンケートに答えてもらえるように、PTA参観授業で少人数学習を公開した。

生徒の意識調査

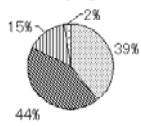
- よくあてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- どちらかといえばあてはまらない

Q1: 勉強の内容がよくわかるようになった

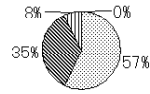


■ まったくあてはまらない

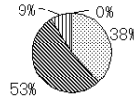
Q2: 進んで手を挙げられるようになった



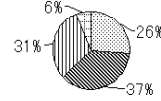
Q3: 先生や友達の話をよく聞くことができるようになった



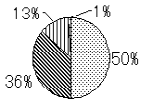
Q4: 自分の力で問題解決しようことができるようになった



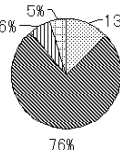
Q5: 分からないことを先生に聞きやすくなった



Q6: いろんなコースに分かれて学習することは楽しい



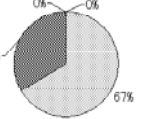
Q7: 自分に一番あっていると思う学習(どれか)



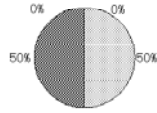
- 生活朝別の少人数学習
- 「基礎」「発展」別の少人数学習
- ▨ 2人の先生が同じ教室で一緒に学ぶ
- 1人の先生が一緒に学ぶ

保護者の意識調査 < 全学年 >

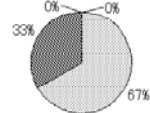
Q1: 勉強の内容がよくわかるようになる



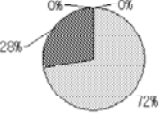
Q2: より手が挙げられるようになる



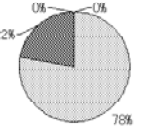
Q3: 先生や友達の話をよく聞くことができる



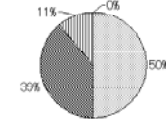
Q4: 自分の力で学習問題を解決できるようになる



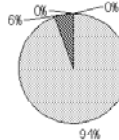
Q5: わからないことを先生に聞きやすくなる



Q6: 学習が得意になる



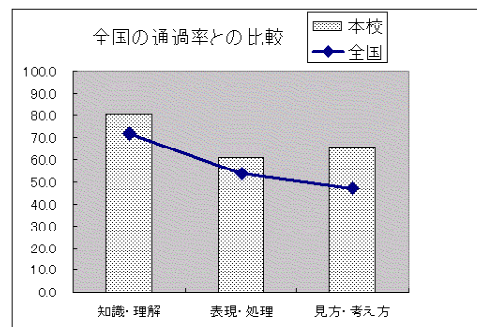
Q7: これからも進めてほしい



全国の通過率との比較 (数学の例)

中学校教育課程実施状況報告書による全国の通過率 (%) と本校1学年: 数学における生徒の通過率 (%) とを「数学的な見方や考え方」「表現・処理」「知識・理解」の3観点について、次のような問題から比較した。

【 第1学年 81名対象  
12月実施 】



アンケート結果から、以下のことが分かった。学習内容が分かるようになったという生徒が9割以上おり、少人数で授業をすると理解度が高くなると感じることが分かった。感想には、「人数が少ないと先生が(机間指導に)きてくれることが多くなって分かりやすくなった」「自分のペースにあった授業ができるからやりやすい」というものが多かった。また、進んで手を挙げられるようになったか、先生や友達の話をよく聞くようになったかという質問に対しても、ほとんどの生徒がそうだと答えている。その反面、分からないことを聞きやすくなったかという質問に対しては、「まだ聞きにくい」と答えた生徒が4割弱おり、半数以上の生徒は聞きやすくなっているが、少人数になっても分からないことを分からないまま質問できない生徒がいるといえる。「自分だけ分かっていない」「こんなことを質問するのは恥ずかしい」といった思いから質問できないことが考えられる。そのため、できるだけ机間指導をして一

一人の生徒に何回も接触することで、個の実態を把握し、分からないことをそのままにしないで質問できるような状況をつくっていきたい。自分の力で問題解決しようと思えるようになったかという質問に対しては、9割以上の生徒がそうだと答えている。習熟度別に分けて少人数学習をすることを通して「発展」コースでは、自分の力で考え、それを筋道立てて説明することを大切にしてきた。その結果、数学的な見方や考え方が身に付き、自分の力でできたという実感をもつことができたと考えられる。「基礎」コースでは、今まで教え込まれてきたことが多かったが、ゆっくり時間をかけてじっくり考える時間をとることで、最後まであきらめずに粘り強く考える力が身に付いた。その結果、「発展」と同様にして、自分の力でできたという実感ももてたように思える。また、どの学習形態が適しているかという質問に対しては、9割の生徒が少人数学習が「自分に合っている」と答え、中でも8割ほどの生徒が習熟度別に分けた少人数学習が合っていると答えている。生活班で分けた少人数指導では、教師側からの利点として「一人一人の実態をより把握できる」ことがいえるが、生徒にとってみると、T・Tとそれほど変わらないと思っていることが分かった。生活班別に分けて行う少人数学習では、ほぼ等質な集団で行うことで、数学的な見方や考え方を養うことを目的としている。しかし生徒にとっては生活班別で分けてもあまり効果的と感じられないため、様々な意見が交流できる場を設ける必要がある。

## 2. 今後の課題

「数学」「理科」「英語」の3教科で少人数指導を進め、他の教科においてもきめ細かい指導を進めてきたつもりであるが、ともすると生徒に乗り越えさせなければならぬ場面にも教師サイドから与えてしまっている場合がある。少人数指導の打ち合わせの時間の確保と能率的な打ち合わせの方法を考えていく。

### 学力把握のための学校としての取組

国立教育政策研究所教育課程研究センターの問題を行い、その問題を実施した学校との通過率との比較から分析を行っている。学期に一度程度、保護者・生徒にアンケートを実施し、少人数指導等に関する意識調査を行っている。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

本年度は2月17日に「公表会」という形で地区の先生方を中心に参加していただき、実践を広めていく。来年度も「発表会」を実施する予定である。実践をHPを使って発信するとともに、冊子として配布し、広めていく。地域の方々にも理解していただくため、公民館の掲示板等実践の様子を紹介していく。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |  |   |  |   |
|----------------------|--|---|--|---|
| 【新規校・継続校】            | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校         |  |   |
| 【学校規模】               | <input type="checkbox"/> 3学級以下                 | <input type="checkbox"/> 4～6学級              |  |   |
|                      | <input type="checkbox"/> 7～9学級                 | <input checked="" type="checkbox"/> 10～12学級 |  |   |
|                      | <input type="checkbox"/> 13～15学級               | <input type="checkbox"/> 16学級以上             |  |   |
| 【指導体制】               | <input type="checkbox"/> 少人数指導                 | <input type="checkbox"/> T・Tによる指導           |  |   |
|                      | <input checked="" type="checkbox"/> その他        |   |  |   |
| 【研究教科】               | <input type="checkbox"/> 国語                    | <input type="checkbox"/> 社会                 | <input type="checkbox"/> 数学            | <input type="checkbox"/> 理科               |
|                      | <input checked="" type="checkbox"/> 外国語        | <input checked="" type="checkbox"/> 音楽      | <input checked="" type="checkbox"/> 美術 | <input checked="" type="checkbox"/> 技術・家庭 |
|                      | <input checked="" type="checkbox"/> 保健体育       | <input type="checkbox"/> その他                |  |   |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有          | <input type="checkbox"/> 無                  |  |   |